

戦評用紙

大会名	平成29年度山形県高等学校バスケットボール選手権大会
-----	----------------------------

日時	2017年10月29日 12:45 ~	区分	(一財)山形県バスケットボール協会
----	---------------------	----	-------------------

チームA				チームB
山形中央				山形市立商業
57	10	1Q	14	62
	13	2Q	20	
	12	3Q	13	
	22	4Q	15	
		延長		

【戦評】

白、山形中央4・5・7・8・9、青、山形商業4・5・6・7・9でスタート。山形商業は6のインサイドと7の1on1を中心に攻める。対する山形中央は連続してスクリーンを使いマークを外してシュートを狙う。お互いに厳しいディフェンスを行い簡単にシュートが決まらない。オフェンスのリズムが悪い山形中央がこの試合最初のタイムアウトを取る。その後、山形中央7・8がドライブを決めスコアを戻す。流れが山形中央に行きかけたが山商6がゴール下で得点し流れを渡さない。山形中央はプレスをかけ主導権を取りに行くが流れは変わらず23対34、山形商業11点のリードで前半終了。後半、中央は、7の3Pシュート、5のドライブ、4のリバウンドシュートと3連続で得点し、4点差まで追いつけるが山形商業7が速攻でバスケットカウントを決め流れを断ち切る。山形商業はインサイドを中心に山形中央を攻め続けるが山形中央は苦しいシュートが続く。35対47、山形商業12点のリードで最終クォーターへ。4クォーター出だし、山形中央は8のドライブ・山形商業は7の1on1からお互いに得点を重ね一進一退の攻防を繰り広げる。5:25山形商業この試合初めてのタイムアウトをとり、流れを戻そうとする。その後、山形中央は、8・9・7と3ポイントシュートを3本決め、54対62、8点差まで差をつめる。残り1:57山形商業たまたま2回目のタイムアウト。タイムアウト後、山形中央は必死に前からプレッシャーをかけ、5点差までつめるが逆転までとどかずタイムアップ。57対62で山形商業がインターハイ予選でやぶれた雪辱をはらした。山形商業7の1on1の強さと6のインサイドの強さが光った試合だった。

戦評者

渡邊 茂隆